



北里柴三郎コース

港区立郷土歴史館

コッホ・北里神社(白金北里通り商店会)

白金商店街

所要時間
(目安)
約80分
初級

問題 1

港区立郷土歴史館

白金台駅2番出口近くにある港区の歴史が
つまっている看板を見つけ、丸で囲まれた
文字を解読表に従って変換し、左から読もう。

(解読表に記載のない文字は使用しない。)

解読表

昭→ね	山→さ	日→東	口→角
住→う	生→ま	浅→も	井→る
子→も	港→ず	木→て	十→北
下→る	理→い	龍→ち	深→も
本→西	ビ→一	赤→南	井→も
芙→え	字→一	竹→武	内→村
優→し	く→み	ル→二	太→岡
薫→わ	上→ぞ	原→櫻	美→富
社→二	侑→乃	豊→勇	心→綾

		a
--	--	---

問題 2

コッホ・北里神社(白金北里通り商店会)

「コッホ・北里神社の由来」の看板を見つけ、看板の文頭を
通って暗号図のSからGまで進んだ途中の文字を読もう。

(ルール：移動は右か下にのみ可能。)

暗号図

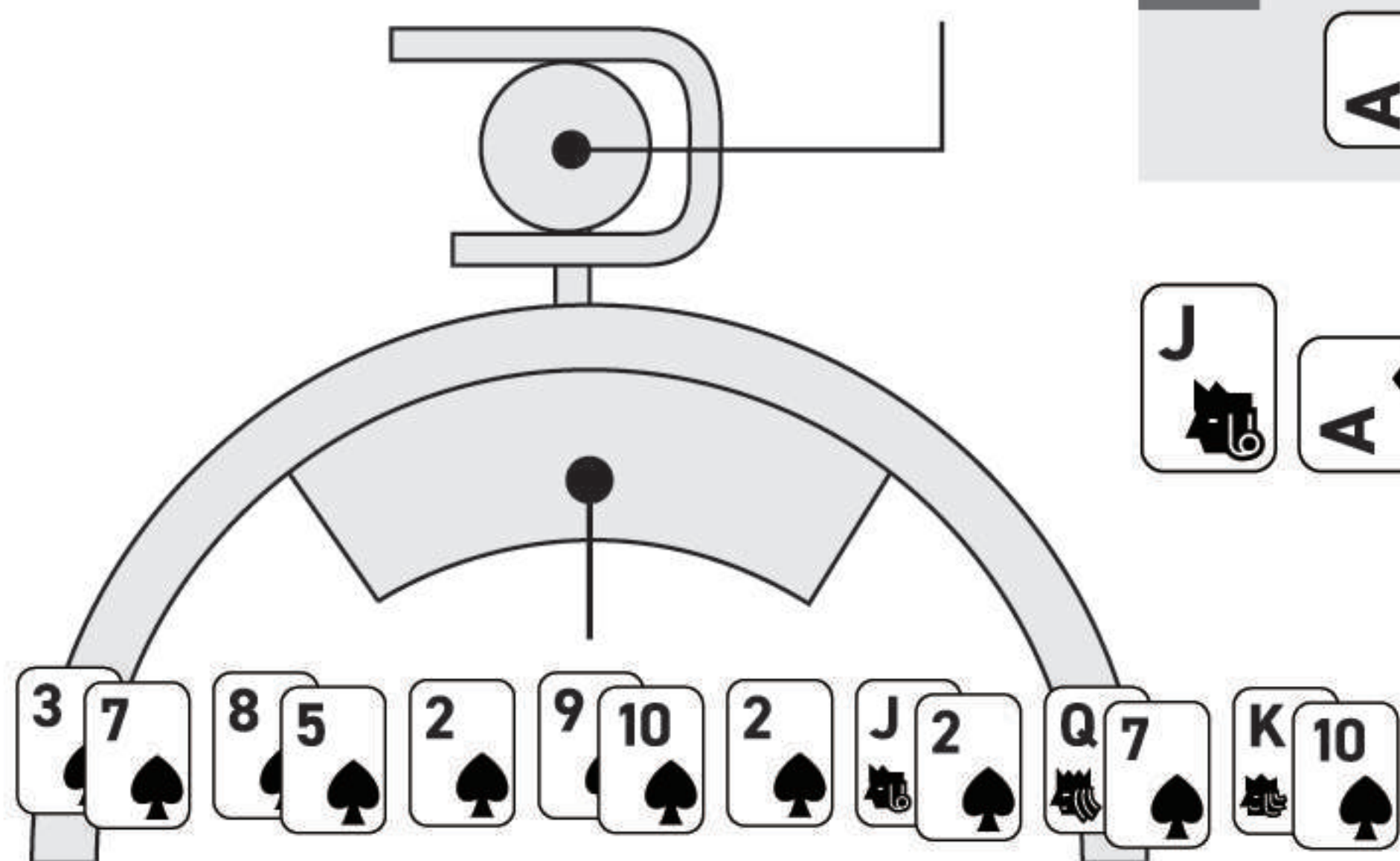
S	北	か	北	み	一	な	一	
東	つ	二	み	東	と	二	り	
ひ	一	い	北	な	北	ゆ	一	
西	げ	南	た	西	の	二	お	
さ	二	が	一	り	二	じ	一	
北	も	北	な	一	ん	南	や	
が	北	な	北	い	北	き	一	
西	や	東	ん	二	か	二	じ	
な	東	い	二	か	一	ら	二	G

		b						c
--	--	---	--	--	--	--	--	---

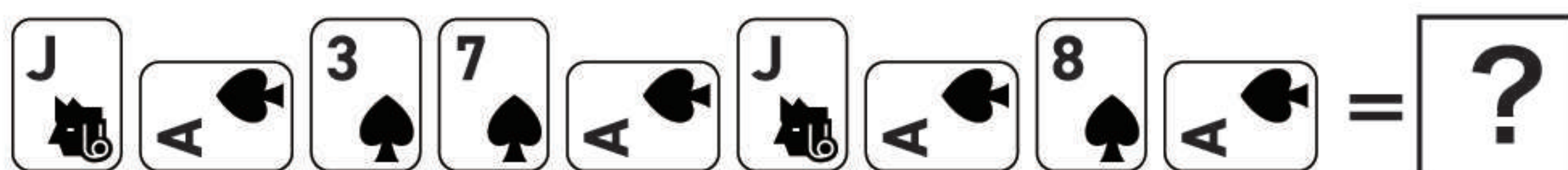
問題 3

白金商店街

時計台を見つけ、イラストを参考に「つ」の前の空欄を埋めよう。



例



d	e				
---	---	--	--	--	--

つ

ヒントはこちら



北里柴三郎
キーワード

新千円札の裏側に関係があるかも…!

d	c	e	b	a
---	---	---	---	---

謎解き MAP



しろかねしょうてんがい 白金商店街



明治43年に設立されてから昭和、平成と名称を変えながら、現在の『白金商店会』となりました。近年ではキャッシュレス化も積極的に導入しており、飲食店も多数あるので街歩きの途中の休憩スポットにぴったりです。下町の風情と、温かなふれあいに満ちた白金商店街へぜひお越しください。

みなとくりつきょうどれきしかん 港区立郷土歴史館



港区立郷土歴史館は、昭和13年に竣工した旧公衆衛生院建物を再整備した施設です。白金台駅から徒歩1分。出土した縄文土器やクジラの骨格標本など、本物に触れることができ、プロジェクトマップやタッチパネルを活用しながら港区の自然・歴史・文化を学ぶことができます。カフェやミュージアムショップもあります。

しろかねきたさとどお しょうてんがい 白金北里通り商店街

「白金」といっても庶民感覚あふれる親しみやすい商店街です。北里研究所病院と聖心女子学院などが目印で、レトロな雰囲気のお店も多く残っている昔ながらの落ち着いた街並となっています。毎年夏には、港区で唯一の阿波踊り「白金阿波踊り」を開催しています。ぜひ「歴史あるお店」とTVやCMで取り上げられる「新しい飲食店」が共存する商店街へ、お買い物やお散歩にいらしてください。



きたさとじんじゃ コッホ・北里神社

北里柴三郎が、師である世界的細菌学者ローベルト・コッホの死を悼み建てた神社。現在は北里柴三郎とコッホがともに祀られています。同敷地内にある「北里柴三郎記念博物館」にもぜひお越しください。

※神社の近隣で騒いだり、ゴミを捨てたりしないようにお願いいたします。
※病院や大学には立ち入らないようにお願いいたします。



北里柴三郎 について

北里柴三郎(1853~1931)は、東京医学校(現在の東京大学医学部)を卒業後、6年間ドイツに留学し、ローベルト・コッホに師事しました。留学中には、多くの研究者が不可能と考えていた破傷風菌の純粋培養に成功し、血清療法を確立しました。帰国後、芝公園内に私立の伝染病研究所を設立しました。研究所はのちに、国に寄付され国立となり、港区白金台の土地へと移ります。そこが現在の東京大学医科学研究所です。1894年、香港でペストが大流行した際には、現地に赴いてペスト菌を発見し、ペスト菌を媒介するねずみ退治のため猫を飼うことを推奨し、役所でねずみの買取を行うなど、日本のペスト防疫事業に取り組みました。1914年、国立伝染病研究所所長を辞任した後、私立北里研究所を現在の白金に設立し、研究を続けました。北里は、自身の研究のみならず後進の指導にも取り組みました。北里は常々「事を処してパイオニアたれ。人に交わって恩を思え。そして叡智をもって実学の人として、不撓不屈(ふとうふくつ)の精神を貫け。」と門下生に説いていたそうです。そんな北里は、門下生や同僚からドンネル先生(雷おやじ)という愛称で畏れられ、かつ親しまれていました。

※史実について諸説あり、一例を掲載しております。

謎解きのヒント
にもなるかも…!